

中学、高等学校の学校教育の自己評価とレジリエンスの関連

黒田晃平 （ 佐賀大学 ）

1. 目的

現代社会では、回避や解決が困難な出来事が数多く存在しており、レジリエンスの育成が望まれている。すでに明らかなこととして、運動部活動経験がレジリエンスを向上させることがあるが、学校教育とレジリエンスの関連を検討した研究はまだ存在しない。そこで、本研究の目的は、学校教育で育成を目指す生きる力とレジリエンスが類似した概念であることを踏まえ、レジリエンスと中学・高校時の学校教育に対する自己評価を測り、1) 学校教育での保健体育とレジリエンスの関連性、2) 保健体育以外の教科とレジリエンスの関連性を明らかにすることであった。

2. 研究方法

- 1) 対象者：S県国立大学、S県私立大学の学生126名（女性42.1%、年齢 20.2 ± 1.4 歳）
- 2) 調査項目：中学・高校時の各教科の得意かどうかの自己評価、レジリエンス、運動部活動経験の3項目を質問紙調査。二次元レジリエンス要因尺度（平野，2010）を使用。
- 3) 分析方法：ピアソンの積率相関分析、保健体育においては運動部活動のレジリエンスに対する影響を統計学的に調整するため、重回帰分析を行った。

3. 結果と考察

1) 保健体育とレジリエンスの関連

相関分析では、中学保健体育は、統御力($r=0.293$)、社交性($r=0.255$)、問題解決志向($r=0.182$)、他者心理の理解($r=0.221$)の4項目で正の相関関係が見られた。また、重回帰分析では、統御力($\beta=0.240$)、社交性($\beta=0.244$)、他者心理の理解($\beta=0.196$)の3項目で有意な関連性が見られた。また、高校保健体育の相関分析は、統御力($r=0.322$)、社交性($r=0.257$)、行動力($r=0.206$)、問題解決志向($r=0.309$)、

自己理解($r=0.175$)、他者心理の理解($r=0.259$)の6項目で正の相関関係が見られた。重回帰分析でも、統御力($\beta=0.313$)、社交性($\beta=0.271$)、問題解決志向($\beta=0.301$)、他者心理の理解($\beta=0.258$)、行動力($\beta=0.188$)、自己理解($\beta=0.189$)の6項目において有意な関連性が見られた。

2) 他教科とレジリエンスの関連

中学、高校ともに関連が多く見られた教科は、音楽、技術、家庭科の技能教科で、4項目以上の正の相関関係が見られた。また、全く関連が見られなかった教科は、中学、高校ともに数学、社会、美術、情報であった。

3) 考察

中学、高校ともに、運動部活動経験の影響を取り除いても保健体育が得意であった者は、レジリエンスが高いことが示された。保健体育の授業は、①他者と関わり合いながら運動を行い、個人や共通の課題に対して協力し、互いに試行錯誤しながら達成を目指すといえる。特に高校は、②授業の種目は選択制であり、自ら決定したことを行うことで、意欲や目標をもちやすく、それに向かって努力、達成ができ、以上の2つがレジリエンス向上に関連していると考ええる。また、技能教科は、他教科に比べてレジリエンスを向上させるということは、保健体育について考えたことに加えて、技能教科は、身体活動や共同性や創造性が高いためであると考ええる。

4. 結論

本研究では、中学及び高校での保健体育の学習は、運動部活動の影響を取り除いても、レジリエンスの向上に寄与していることが明らかになった。また、その他の教科に関しては、ほとんどの教科がレジリエンスの向上に寄与しており、その中でも技能教科がより強い影響を示すことが明らかになった。